

一年学年だより

No. 8【12月号】

令和6年12月18日発行

たったいま

【 たったいま死ぬかもしれない ころの底からそう思えば
あらいもいさかいたくなくなる だれもがたったいま死ぬかもしれない 】

谷川俊太郎氏の詩、「たったいま」の冒頭です。漢字を最小限の使用に留めた、誰にでも伝わる言葉遣いから、ハッとするような真理を伝えてくる。この詩に触れてから、この詩の優しさと切なさがずっと頭から離れません。

今年11月、92歳で亡くなられた谷川氏は、21歳で詩人として名を馳せて以来、半世紀以上も言葉に人生を賭けてきた詩人です。数えきれないほどの名詩を生み出してきた方ですが、その特徴の1つに「意図したひらがなの使用」が挙げられます。年齢を問わず、詩に込めたメッセージを伝えきる。その力があつたからこそ、彼は日本で最も有名な詩人となったのだと思います。「伝える力」の極致といえるでしょう。

上記の詩のメッセージは、皆さんに伝わったと思います。ところで、皆さんはそうした思いで日々を過ごしているのでしょうか。

毎日通う教室。顔を合わせるクラスメイトや先生。授業や部活動。無限に続くように思われるこの時間にも、最後の時はやってきます。1年生でいられる時間が、残り4か月になってしまったのがその証拠でしょう。このメッセージが伝わった皆さんは、たったいまから何か始められますか？

どんな物事にも、「もう遅い」と言われる瞬間が訪れます。学校生活であれ、長い目で見た人生であれ、一番大切なときに、大切なことができる人になってくださいね。

【 ころはいつもさまよっている ころは晴れたり曇ったり
そんなころの深みには ひとすじの清らかな流れがあるはず 】

(107HR担任)

「心温まる善行」

以前に聞いた人もいるかもしれませんが、2学期中にあった本校生徒の善行について紹介したいと思います。

1つ目は、9月上旬の日曜日に南海放送サンパーク跡地近くで、手押し車のおばあさんが転げて倒れているところを、本校の生徒が助けたそうです。その様子を見かけた近所の方から連絡がありました。

2つ目は、10月上旬に松前町で車と接触して倒れたおばあさんの救急搬送を、本校の生徒が手伝ったそうです。この生徒は救急車を呼び、安全な近くのコンビニの駐車場に誘導し、コンビニの店員に事情を話して了解をいただき、救急車が到着して病院に向かうまで、おばあさんに付き添いました。おばあさんの娘さんから感謝の連絡があったそうです。

3つ目は、10月下旬の夕方、久米方面に向かう道沿いの草むらに眼鏡を落とした方がいました。そこに通りかかった本校の生徒が、御本人に声をかけ、一緒に探したそうです。「雨の中、本当にありがたかった」という感謝の連絡がありました。

気づいたり思ったりしていても、なかなか行動に移せないことがあると思いますが、実際の行動が大切だと感じました。これからも心優しい中央生でいてください。

(107HR副担任)